

特 集

地域史の可能性を求めて— バルカンと東アジアの歴史教科書から

特集にあたって

柴 宜弘

この特集に収められた5本の論文は、2005年11月12日に「バルカン諸国歴史教科書の比較研究」プロジェクト、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、ドイツ・ヨーロッパ研究センターの主催、国際交流基金の後援で開催された国際シンポジウム「地域史の可能性を求めて——バルカンと東アジアの歴史教科書から」における3報告と報告者個別のセミナーでの2報告にそれぞれ加筆・修正していただいた成果である。

バルカン諸国共通歴史副教材作成の経緯と意義を述べたクルリ論文はシンポジウムの基調報告であり、歴史教科書における地域史とナショナル・ヒストリーを分析した報告のうち、コレン論文はクロアチアを事例としたものであり、イーリッヒ論文はモルドヴァを事例としている。本特集に掲載できなかったが、シンポジウムではこのほかにアルバニアを扱ったドゥカ(ティラナ大学)報告、ボスニア・ヘルツェゴヴィナを扱ったドゥイモヴィチ(サラエヴォ歴史研究所)報告、セルビアを扱ったマルコヴィチ(ベオグラード現代史研究所)報告があった。

シンポジウム参加者には各自の専門分野についての個別のセミナーを行ってもらったが、1896年のギリシア・オリンピックを扱ったクルリ報告、ユーゴスラヴィアの政治文化を検討したシンポジウム・コメンテーターのヴォドピヴェツ報告も、あわせて本特集に掲載した。モルドヴァを事例としてナショナリズム理論を分析したイーリッヒ報告は分量が長すぎるため、残念ながら本特集への掲載を見送らざるをえなかった。

なお、シンポジウムとセミナーの日本語の報告集は2006年夏に明石書店から出版される予定である。